

女性委員会セッション

テーマ

和の空間の魅力を探る ふあになる～これから～

「魅力ある和の空間ガイドブックWEB版」の活用

運営 女性委員会

司会…矢尾志津江 | 石川県建築士会 コーディネーター…小林淑子 | 連合会女性委員会副委員長

パネリスト…石川久美子 | 宮城県建築士会 草刈めぐみ | 山形県建築士会 櫻井澄子 | 栃木県建築士会 江田裕子 | 石川県建築士会

2018年からHP上に公開している「魅力ある和の空間ガイドブックWEB版」掲載施設の紹介とパネルディスカッションを会場とオンラインのハイブリッド方式で行った。

施設紹介

[宮城県]

近代日本経済の礎を築いた陸と海の豪商
角田市郷土資料館(旧氏丈邸)・海商の館 旧亀井邸

明治、大正の時代に海と陸で栄えた豪商の邸宅。内陸部と沿岸部という対照的な立地であるが繊細な意匠が多用されている点が共通している。旧氏丈邸は和風建築でありながら可愛らしい照明やステンドグラスなど外国からの技術やデザインが品良く調和している。旧亀井邸も同様で、いずれも和と洋の技術とデザインが絶妙に共存している建物であった。

[山形県]

江戸時代町家の姿を伝える貴重な遺構
芭蕉、清風歴史資料館(旧丸屋・鈴木弥兵衛家)・旧風間家住宅「丙申堂」

猫間障子や漆喰の防火藪戸、2階の囲炉裏など「和の空間」を視点とした取材だったからこそその発見や驚きが紹介された。江戸時代の建物が永く残っている意味を改めて考え、建物を永く使い受け継いでいくこと、そのための技術の継承、職人の育成などについて、現代の空き家問題と重ねて考え直す機会になったとのことであった。

[栃木県]

古き建物を訪ね新らしき「和の空間」活用を知る
日光田母沢御用邸・瀧澤家住宅

明治から昭和の3時代の建築様式が混在しつつ調和して残る田母沢御用邸。現存する明治・大正期の御用邸としては最大のもので、書院様式に数寄屋の意匠を取り入れた御学問所や和と洋の意匠が融合された御座所入側など、贅沢だが絢爛豪華なわけではない日本人の美意識を感じる和の空間である。釘隠しや襖引手、照明などは部屋の用途ごとにデザインされている。広大な建屋の銅板葺きの一枚屋根もぜひ拝見してみたい。

[石川県]

庭屋一如 ～庭と一体化した空間～
金沢城公園玉泉院丸庭園 玉泉庵・武家屋敷跡野村家

史実に基づき再現された「庭園」に隣接する休憩施設として新たに平成の時代に整備された玉泉庵。庭園を眺めることに拘り、建具の納まりなど細部にわたり計算されており、その庭の眺めは圧巻のこと。木材や石、伝統工芸など使用する材料の選定や造り上げる過程にも拘り、技術の継承や本物志向で造り上げたその心意気を感じるものであった。

パネルディスカッション

冒頭に、オンライン参加者に向けて投票機能を活用した質問を投げかけた。「ガイドブックを知っていたか」「紹介された施設で興味のあるものは？」など。リアルタイムで即座に集計できるのもオンラインならではの体験だった。

その後、会場においてコーディネーターから「ガイドブックの活用」について問いかけ、山形や宮城ではパネルやパンフレットなどを製作し、掲載施設等に贈呈、配布した事例が報告された。コロナ禍で士会活動に制限があった中、活動予算を上手に使った事例である。栃木でも開催予定の子供向けイベントでの活用を予定しており、このガイドブックが多くの方々の目に触れ、地域での建築士会活動の良きツールとなってきているようだ。また宮城では、掲載施設での見学会やお茶会など会員交流活動に発展した事例もあった。石川ではガイドブックを直接活用した活動ではないが、その製作を通して、「和の空間への興味」がより深まり、伝統工芸や古くからの建築技術について体験を通して「知る」という活動に繋がっていた。

「魅力ある和の空間」をテーマとした女性委員会セッションは、これまで、埼玉、北海道、広島、そして秋田と4回にわたり行ってきた。今回が『ふあになる』である。それぞれの活動の中で、そして個々の意識の中で『これから』に繋がっていくことを願いたい。

(矢尾志津江/石川県建築士会)

日時…令和4年10月14日(金)

会場…あきた芸術劇場ミルハスB1F 小ホールB

参加者…会場75名、オンライン23名



ステージ



会場全景



集合写真



パネルディスカッション (Zoom画面)